

原発 そこが問題だ

第 10-1 号

2022 年 4 月 22 日

原発反対の会・吹田

wasser861.a@pure.zaq.jp

ロシア軍によるウクライナ侵略糾弾、原子力施設から撤退せよ！ウクライナの罪のない人を殺すな！

ウクライナの原発に思う

「原発 そこが問題だ」第 9 号（原発反対の会・吹田、2022 年 4 月 7 日）を読みました。ウクライナでの原発の稼働状況、ロシアの武力攻撃の状況などが記載されており、いろいろな思いに駆られます。

最初に思ったのは、1986 年のチェルノブイリ原発事故の後、35 年を経ても 15 基の原発が稼働し、ウクライナ国内の全電力の 54%を占める「原発大国」であることに対する驚きです。同様に、日本も 2011 年の東日本大震災での福島第 1 原発事故後も脱原発にならず今も運転を続け今後も続けようとしています。これも驚愕する現実です。何故、ドイツなどのように脱原発に踏み切れないのかという思いです。次に思ったのは、ロシアのウクライナ侵攻・侵略は「戦争と原発」をリアルに考えさせられる機会になったことです。原発を「平和利用」として原爆の軍事利用と区別されていますが、ロシア軍が原発施設にも侵攻・攻撃・制圧した現実はこの区別が出来ないことに気づかされます。

原発は「平和利用」と無縁です。原発においては「核爆発」は起こっていませんが日常的に核分裂が起こっています。京都から 60～70 km くらいの福井に日常的に核分裂を起こしている巨大な施設群があることに恐怖を感じます。原爆は起爆装置が働かないと核分裂は起こりません。日常的に核分裂が起こっている原発は、地震・津波、電源喪失、運転ミスなどで事故が起きれば、放射能は拡散し地域社会は崩壊します。日本の原発は現在、原子力規制委員会 HP では、稼働中 5 基、停止中（定期検査中）28 基※、廃止・廃止措置中 26 基となっています。稼働中とは、日常的に核分裂が起こっている状況の中で、人々が日常生活を営んでいるということです。

この原発にミサイルでなくても何らかの攻撃がなされれば社会は崩壊します。そのことをロシアのウクライナへの侵攻・侵略から考えさせられています。日常的な核分裂施設である原発、これほど危険な施設はないと痛感します。

※停止中 28 基はすべて定期検査中と同 HP で表記されていますが、再稼働準備中および再稼働申請中などが多くあり正確な表記と言えません。（NGO 市民科学京都研究所・重本直利）

信じられないこと。私の怒り

プーチン・ロシア軍による地獄のような残虐行為があからさまになり、その有様がリアルにテレビ映像で伝えられています。これを駐日ロシア大使はインタビューで「ウクライナ・西側のでっち上げだ」とし「自作自演」とまで抗弁していました。彼の冷やかで平然とした態度には唖然としました。

さて、2 月 24 日にロシア軍が「侵攻」と報じられ「戦争」が始まりました。

独立国の一方が相手に勝手な要求を突きつけ「命が欲しければ従え」と迫ったのです。理不尽の極みでしょう。

私はこれは「戦争」でなく「侵略」であり、ウクライナは「戦争当事者」でもあり得ないと受け止めました。メディアは未だに「軍事侵攻」と表現していますが。ゼレンスキー大統領が即抵抗を表明しました。直ぐに口先でなく本物だと解ってきました。ウクライナ国民の抵抗の意志も伝わってきました。正直に凄いなと感じました。命より大事なものもあるということを世界に発信したと思います。

『週刊金曜日』(4/1)の巻頭言「風速計」に私の好きな映画監督の想田和弘氏が書いています。ウクライナが「無血開城」したら街も破壊されず死ぬ人もなかったのに。応戦し武器を取るのは逆効果、だと。ではプーチンとロシアの責任はどうなるのか(書かれていない)? 残念です。

橋下徹氏は人命が最優先などとそれらしい薄っぺらな理屈を述べています。そもそも、この決断について主権者たるウクライナ国民以外にどうのこうのと言える資格はないのです。

怒りが治まらないので朝日新聞の「朝日川柳」に投句し続けていますが未だ採用されず。情けないのですがご参考までに幾つか紹介させていただきます。

- 強盗に命保証されて国滅ぶ
- プーチンに喝お見事一本山口さん(女性柔道家が批判)
- 良かったねと肩撫でおろしたいウクライナ(テレビの臨時ニュース表示に朗報期待)
- 防弾チョッキ武器がなければ不用品(共産党の考えはやや杓子定規に思えます)
- 人道回廊は虐殺の下準備なのプーチン閣下(茨木市・内藤)

世界の平和を祈りたい

「原発 そこが問題だ」第9号を読みました。ウクライナの原発も各地で停止しているのがよく分かります。チェルノブイリ事故の前につくられたものとはいえ、攻撃されたそうですが、さらに爆破されますと、原爆投下と同じ結果になってしまいます。まったく困ったことです。ならば太陽光などによる発電では…などと素人考えを持っていましたが、今朝の5チャンネルのニュースを見て、この戦争問題が政治・経済など大変大きな問題と関係があることに気づかされました。とくに、ウクライナ人が危険な状況から逃れるために日本へ来ましたが、そのことについて日本がアメリカなどと合意して政治的裏工作でもしかねないような解説もありました。なにか第3次世界大戦の危険さえ感じてしまいました。

詳しいことは分かりませんが、大国はどこでも原発、原爆でもミサイルでも持っているでしょう。ひとたび世界大戦にでもなったら地球破滅の状態になってしまうでしょう。

ウクライナの人たちの状況を思うとなんとも言えない不安な1日になってしまいました。なんとかこのような不安を避けてほしいものです。

なんとか米ロの対立を避け、世界の平和を祈りたい。(水戸市・長谷川芳正)

注: 私事ですが、長谷川芳正さんは私の中学校時代の先生で、23年間の学校時代で最も尊敬する恩師です。(青水司)

マスメディアはこんなんでいいの

ウクライナ問題はマスコミも連日取り上げていますが、ミャンマーの軍事政権の国民への弾

庄問題や自衛隊がミャンマーの軍事政権と共同訓練をしていることなどは話題にもなりません。この4月からは政府批判（東京オリンピックやコロナ問題、自民党の買収選挙問題などで）をしていた番組がなくなったり、コメンテーターが差し替えられたりで、マスコミの政府や維新の会への付度がひどくなっています。

原発や核兵器廃絶問題は人類、地球環境の維持の死活問題として取り上げる必要があります。同時に、平和を求めるあり方として武力による他国への侵略は論外ですが、軍事同盟の解消こそ大事だというのがウクライナ問題からも見えてきます。

わたしも青木理さんと同じようにロシアの行動を見て、戦前の日本軍国主義の中国への侵略と同じやり方だと思いました。
(吹田市・有木茂)

ウクライナとの戦争に反対するロシアの研究者および科学ジャーナリストの公開書簡

2022年2月24日

我々、ロシアの研究者および科学ジャーナリストは、ウクライナ領土においてわが国の軍隊によって開始された軍事行動に対する断固たる抗議を表明する。この破滅的な一歩は、甚大な人的犠牲をもたらし、既存の国際安全保障体制の諸原則を毀損する。ヨーロッパにおいて新たな戦争を始めた責任の一切はロシアにある。

この戦争に対する、いかなる合理的な正当化事由も存在しない。軍事作戦を展開する口実としてドンバスの状況を利用する試みには、いかなる信用もおけない。ウクライナが、わが国の安全保障にとって脅威でないことは、全く明らかである。ウクライナに対する戦争は、不正義であり、明らかに無意味である。

ウクライナは、我々にとって親密な国であったし、今もそうである。我々のなかの多くの社の親類、友人そして学術活動における同僚がウクライナに暮らしている。我々の父、祖父、曾祖父は、ともにナチズムと戦った。いかにわしい歴史的幻想によって突き動かされたロシアの指導部の地政学的野心のために戦争を開始することは、父祖たちの記憶に対する冒瀆的背信行為である。

我々は、機能する民主的諸制度に支えられたウクライナの国政を尊重する。我々は、隣人が親ヨーロッパ的選択をしたことに理解をもって接する。我々の両国の間のあらゆる問題が平和的に解決できることを、我々は確信している。

開戦後、ロシアは、国際的孤立そして逸脱者国家としての地位に陥った。このことは、我々研究者がもはや自分の仕事を通常通りに行うことはできないことを意味する。なぜなら、他国の同僚と十分に協力せずに研究を行うことなど無意味だからである。世界からのロシアの孤立は、肯定的な将来の見通しが全くないまま、わが国が文化的・技術的にさらに衰退していくことを意味する。ウクライナとの戦争、そこに進む先はない。

わが国は、他の旧ソ連構成共和国とともにナチズムに対する勝利に決定的に貢献したにもかかわらず、今ではヨーロッパ大陸における新たな戦争を引き起こした張本人になってしまったことを、我々は痛苦の想いで自覚しなければならない。我々は、ウクライナに対する一切の戦闘行為を直ちに中止するよう要求する。我々はウクライナ国家の主権と領土的一体性を尊重するよう要求する。我々は、我々が両国のために平和を要求する。

訳：金山浩司（九州大学基幹教育院・共創学部）

本署名は当初370人、3月12日には7,750人が署名

注：上記「公開書簡」の日本語訳が『新しい風』2022年4月号（日本科学者会議・電気通信研究所分会）に掲載されました。注目すべき文書ですので、重本直利さんにお送りしたところ以下のコメントをいただきましたので、私の応答とともに掲載します。

(青水司)

青水司さんへ

「公開書簡」、拝受、読みました。ロシア政府に明確に反対するメッセージとして大きな意味があると思います。その上で、いくつかの表現が気になります。「ウクライナとの戦争」という表現がありますが、まず「ウクライナへの侵略」と表現すべきだと思います。この侵略の責任の一切はロシアにあると。この侵略への応戦をウクライナは強いられ、戦争に至った。また、「軍事作戦」という表現は「侵略」です。「ウクライナに対する戦争は、不正義であり、明らかに無意味である」は「ウクライナに対する侵略は、明らかに不正義であり、全く無意味である」と言うべきだと思います。

メッセージに記載されている「ロシアにとって親密な隣国ウクライナ」と同様に、かつて日本にとって親密な国であった隣国に侵略し虐殺を繰り返し、不法で不正な「韓国併合」、「満洲帝国建国」に至り、さらなる虐殺を繰り返した歴史を想起します。この歴史的事実を日本の現政権は認めていません。現ロシア政府も現在行われている市民の虐殺の事実を認めようとしていません。ロシア市民も政府のプロパガンダ（政治的意図をもった宣伝）によって多くの人が現政権を支持しています。これも戦前の日本と同様です。当時、大日本帝国（天皇制国家主義）が「地政学的野心」のために侵略したことを日本人は同様に想起しなければなりません。反省のない日本は、今後、プロパガンダによって同じことを繰り返すのではないかと危惧します。とり急ぎコメントまで。

(重本直利)

重本直利さんへ

「公開書簡」へのコメント有難うございました。まったく同感というより重本さんが長年市民科学の研究、運動で培ってこられた日韓の平和交流の観点が示されていると思います。ロシアの科学者がおかれている状況を考慮しても、「公開書簡」が、明らかな「侵略」を「軍事行動」、「戦争」とするのは本質をおおい隠すものです。

「原発 そこが問題だ」9号の「みなさんへ」でも書いたように、プーチン、ヒトラーの独裁を批判しますが戦前の絶対主義天皇制にふれることさえしない現政府はもちろん、メディアも問題です。植民地朝鮮での虐殺や強制連行、中国侵略での南京大虐殺や731部隊のマルタ（中国人・ロシア人）を使った細菌兵器の生体実験まで行われました。そしてその「研究成果」をアメリカに提供する代わりに罪を免れた医学者たちがその「研究成果」によって戦後の医学界で君臨し、さらにその弟子たちが、福島第1原発過酷事故の放射能による多くの小児甲状腺がんを否定する中心的役割をはたしています。まさにロシアのプーチンに勝るとも劣らない悪行をしてきたのです。ヒトラー、プーチンだけが「悪魔」ではありません。歴史の偽造（歴史修正主義）は許せません。

(青

水 司)

追記：2月24日、ロシアの侵攻以降、日本科学者会議幹事会声明（2月27日）、＜ひろば＞

藤本和貴夫「ロシアによるウクライナ軍事侵攻」（『日本の科学者』5月号）などは、2月24日のチェルノービリ（チェルノブイリ）原発の占拠（制圧）、3月4日のザポリージャ（ザポリジエ）原発の攻撃・制圧に抗議していません。藤本論文はいくつかの声明を取り上げていますが、原発に言及さえしていません。理解に苦しみます。